

渋谷区立 代々木 中学校 学校経営方針 2025

校長 駒崎 彰一

教育目標

確かな未来へ Launching Authentic Futures

「**Society 5.0**」の到来に伴い創出される新たなサービスやビジネスによって、我々の生活は劇的に便利で快適なものになってきています。一方で、**人類がこれまで経験したことのない大きな変革期**を迎えるともいわれる中で「AI、ビッグデータ、IoT、ロボティクス等」の**高度化した先端技術**を使いこなし、**多様な他者の価値観や特性の差異**、**世界的な環境の変化等**と協調して、これまで経験したことのない様々な課題を主体的に解決していく**人材**が求められています。

○ Communication (対話)

多様な他者との主体的な「コミュニケーション」(対話)により
自分の良さ(自分らしさ)や可能性を見出すとともに
あらゆる他者を価値のある存在として尊重することができる

○ Collaboration (協調)

多様な他者との「コラボレーション」(協調)により
最適解・納得解を導き出し
様々な社会的変化を乗り越えることができる

○ Innovation (革新)

新しい価値(コト・モノ)を創出することで
豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができる

Communication(対話)がCollaboration(協調)を生み
Collaboration(協調)がInnovation(革新)へとつながることを体得する。


 政府広報 | 内閣官庁

それは、いつもの毎日にやってくる、半歩先の未来。

「ご注文ノ荷物ヲ ドローンガ オ届けシマス」。

これは、映画やアニメのシーンではありません。

すぐそこまで来ている「Society(ソサエティ)5.0」の、ごく普通の日常です。

AI、IoT、自動運転技術といった新たな技術革新で、
私たちの暮らしは、より便利に。企業の可能性も広がっていきます。

技術には、未来を変える力があります。

少子高齢化や人手不足など、今の日本が抱える社会課題を解決する力もあります。

その力を身につけることで、私たちはさらなる成長を続けることができます。

Society5.0がかなえる、超スマートな日本へ。

未来をカタチにする時代は、もうはじまっています。





Society 5.0

ソ サ エ ティ

未来投資戦略Society5.0の実現に向けた改革 日本経済再生総合事務局

※ さあ、Society5.0の世界へ。上白石萌音さん主演 90秒CM 1月3日(水) テレビ朝日系列 よる9時からの「君の名は。」にてオンエア

私たちの暮らしはどう変わるの? >>>



社会の激しい変化を捉えた世界的な教育改革の流れ
 （知識基盤社会のさらなる発展 → 協調型問題解決能力）
 OECDにおける「キー・コンピテンシー」
 民間企業からの「21世紀型スキル」

世の中の事象を「正確に覚えているのか」ではなく、
 多様な他者と協調して
 「新しい知識・価値・考え」を創出する
 ことができるようにする
 Collaborative Problem Solving

半歩先の未来社会

Society 5.0を優位に生き抜く人材の育成

社会が変わる 学びが変わる
 （社会の常識＝学校の常識）



「学びのイノベーション」

指導者（教員）主導の学びから
 学習者（生徒）主体の学びへ

コンセプト2025

「対話」を重視する

「対話」を通じて多様な他者と関わりあうことで「ともに見る、ともに感じる、ともに考える」という共感を伴った「理解」が生まれ、その先の「信頼」へとつながっていきます。

この「対話」から「信頼」へのサイクルを往還させることで「知を高め」「人を育み」「地域の核として共創の場をつくる」ことを進めていきたいと考えています。

まさに「対話」が「Communication Collaboration Innovation」を構築する手段になるはずです。

コンセプト2025

「対話」を重視する

～対話により「ちがいをちからに変える」～

めざすのは「ちがいをちからに変える学校」
あなたと誰かの「ちがい」はすべて
この学校のちからになっていきます
あなたが存在しなければつukれない未来がある
代々木中学校のすべてのちがいをちからに変えて
未来社会を見据えた「未来の学び」を創造し
「未来の学校」を構築する

「そろえる教育」から「伸ばす教育」へ
 従来の「みんな一緒」の教育から
 一人一人の「可能性を最大限引き出す」教育へ

同質性・均質性 一律一様の教育・人材育成
 一斉指導・形式的平等主義など
 みんな一緒に みんな同じペースで みんな同じことを

多様性を重視した教育・人材育成
 協働的な学び・個別最適な学び（指導の個別化・学習の個性化）
 対話を通じた「最適解」の形成 それぞれのペースで自分の学びを

マルチ・コンセプト

Don't think. Just do! YOYOGI
 やっちゃんえ 代々木

「世界水準の学び」の構築に向けた「学びのイノベーション」が求められています。これまでやってきた教育活動を踏まえ、「未来の学び」を試行錯誤して構築していく必要があるといわれている中で「新たな課題」が数多く出現することが予想されます。

これらの課題を乗り越えるためには、「**実行力**」が重要です。子供たちのために「良いこと」はとことんやる。そして、やり切る「**突破力**」も必要です。

この「実行力・突破力」を引き出すためにマルコンセプトを設定しました。

目的 と 目的達成に向けた 手段 を認識する

教育目標(目的)を達成するために
次の5つの手段からアプローチ

- 「新たな学びの実現・探究学習について」
- 「安心・安全に挑戦できる教育環境について」
- 「学校DXへの取組について」
- 「地域リソースの活用について」
- 「特色ある教育活動について」

新たな学びの実現・探究学習について

「学びのイノベーション」 ～ 対話を重視した学習者主体の学び ～

授業を変える（各教科）

知識構成型ジグソー法をベースにドラスティックな
授業デザインの転換
主体的・対話的で深い学びの視点から社会と学びをつなぐ

Project Based Learning

地域団体・民間企業等との協創 学年・教科を越えたPBL
Authentic Learning 「社会課題の解決」と「学び」の融合

Inquiry Based Learning × STEAM

社会に広がるテクノロジー等を最大限活用して
実際の社会課題にアプローチ



安心・安全に挑戦できる教育環境について

学校生活を充実させるために「信じ、待ち、許す」

ことを基本方針として指導を広げていきます。

生徒を100%「信じる」こと

丁寧に指導して成果をじっくり「待つ」こと

失敗を「許し」成長につなげること

を徹底することで安心・安全に挑戦できる教育環境を構築していきます。

- ◆ 生徒の夢を育む「だったらこうしてみたら」型の指導を進めます
「それはダメ（無理）でしょ」という教師の価値観をおしつけない指導
- ◆ 日本一「面倒見の良い」学校を目指します
- ◆ 「生活指導」から「生徒支援」への転換

学校DXへの取組について

授業・学校生活・校務等の学校に関わる全ての活動に躊躇せず先端技術を導入し活用することで学校DXの実現を目指します。

タブレット端末の常時の持ち帰りや欠席連絡のデジタル化など、生徒・教職員・保護者・地域等の協働により、すべての関係者の**デジタルシチズンシップの醸成と今後の教育の方向性を考える契機として取組を広げていきます。**

D X Digital Transformation (デジタル トランスフォーメーション)

単なるデジタル化ではなく。全体をデジタルネイティブに生まれ変わらせること。

- デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること
- 既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらすもの

地域リソースの活用について

地域のリソースを最大限に引き出し、教育活動を展開していくことで「地域とともにある学校」への転換を図ります。

コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の活性化により、学校と地域社会が目標やビジョンを共有し、地域と一体となって生徒を育む体制を構築していきます。

「未来の学校」 PV

<https://www.youtube.com/watch?v=tukPf3TGxQ>

特色ある教育活動について

- **文部科学省「授業時数特例校」**
シブヤ未来科（総合的な学習の時間）の拡大展開
地域や関連団体・企業等と連携した探究学習から個別の探究に
- **部活動の地域移行を推進するためのモデル校**
（渋谷区スポーツ等部活動強化校）
2025 年度も、運動部活動を中心に渋谷区スポーツ協会（渋谷ユナイテッド）との連携によりスポーツ・文化活動の地域密着型コミュニティの創出を目指す。

不定期発行の **校長室だより** はじめました！

校長室だより
**うんとこしょ
どっこいしょ**
THE HEADMASTER'S REPORT

校長室在室中は、扉を全開にしております。
いつでも**来室を！**お待ちしております！

令和7年（2025年）度 よろしく願いいたします